「なんぢのこゝろ」

詞林採葉抄巻之一

奈良宮時代事或云九代亦八七代ナト説〻不同也續日本紀曰自持統天皇至光仁天皇九代居寧樂都云〻水鏡田和銅三年自難波遷奈良都矣万葉集第一巻和銅三年春二月從藤原宮遷寧樂都焉如此両説者七代ト見タリ仍今考之云慶雲四年六月十七日文武天皇於藤原宮崩御同七月十三日母后元明天皇即位同五年正月改元為和銅同二年始建那羅都同三年遷都至祖武天皇延暦二年代〻居平城宮同三年遷山城國箇木郡長岡京同十三年遷都平安城云〻然者自藤原宮遷都以来皇后是七代ナル者也

「南殿のさくら」

源氏花宴巻云きさらきのきさらぎのつごもりなんでんの櫻のさかりにさしつぎの人后きさきの宴つかうまつりたまふ云〻

本朝文粹巻之十云春惜櫻花應製

菅贈大相國

四十二

むかし。あるところの帝。住給ける。「のもと」（清本印本ナシ）。春宮の。中イ本

住給へ。（ゝゝゝゝ泉）なりけれ。（二月諸本）ども。なりぬる。

南殿のさくら。庭（活本印本）。夕ばえ。あるのみ

をぞ。みきはれ柳。（活本印本）。ゆえきのあを。（たれる春自本）。ゆえ。（ゝゝゝゝ春イ本）。

「あやまれ柳本」「ゝゝゝ自本」「ゝゝ」なる。（す諸本）。

「諸本ナシ」ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。「ゝゝ」（ゝゝ諸本）。ゝゝ。

「ゝゝ」（ゝゝ諸本）。ゝゝ。ゝゝ。

「ゝゝ」（ゝゝ諸本）。ゝゝ。ゝゝ。

ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ